

## 行方不明にならないために

GPS機能の利用で、全ての危険を防ぐことができるわけではありません。  
行方不明を未然に防止するために、普段から以下のことに取り組みましょう。

### 【家庭で行っていただくこと】

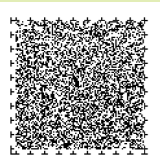
- 学校で学習した登下校の安全に関する内容を、話し合しましょう。
- 通学経路や目印となる建物、放課後活動の場所、利用する公共の交通機関を、子供と確認しましょう。
- 道に迷ったときや交通機関に乗り間違ったときなどの対応について、あらかじめ決めておきましょう。

### 【学校・地域と連携して行っていただくこと】

- 学校・支援機関に、子供の通学時の経路や利用する公共の交通機関などの情報や、家庭で共有している、道に迷ったときなどの対応について伝えておきましょう。
- 放課後などの活動の予定についても、担任の教員と確実に情報を交換しておきましょう。

### — もしも、登下校中に行方不明になったときには —

- 子供が利用しそうな交通機関や立ち寄りそうな場所を、学校や関係機関に伝えましょう。
- それらの場所を学校・関係機関と連携して、捜しましょう。
- スマートフォンや携帯電話、GPS機器などを持たせている場合には、それらも活用しましょう。



位置検索(GPS)機能を活用した安全・安心な登下校に向けて  
東京都教育委員会印刷物登録 平成30年度 第123号 平成30年12月  
編集・発行 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課  
所在地 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 03-5320-6847  
印刷会社名 正和商事株式会社

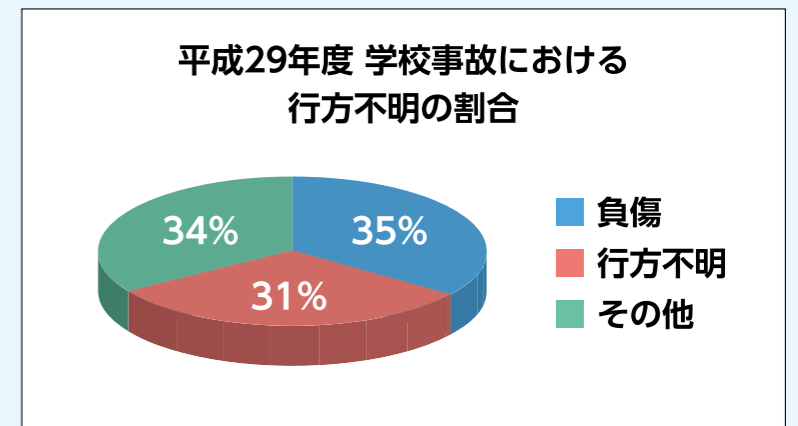


## ～ 都立特別支援学校の保護者の皆様へ ～

## 位置検索(GPS)機能を活用した 安全・安心な登下校に向けて

- ◆ 東京都立特別支援学校に在籍する児童・生徒が、登下校中に道に迷ったり、交通機関を乗り間違えたりする等により、所在が一時的に分からなくなることがあります。こうした「行方不明」は、学校事故全体において「負傷」と並び、約3割を占めています。

- ◆ 「行方不明」になった結果、当該児童・生徒が、交通事故や様々な社会的トラブルに巻き込まれることも想定されることから、予防のための計画的な取組が必要です。



- ◆ 「行方不明」になった当該児童・生徒を早期に発見、保護できるような手段を確保しておく必要があります。

### 行方不明になったときの児童・生徒の状況



アナウンスしているみたいけど、何を言っているのか、全然分からないよ。



いつもと違うことが書いてあるみたい。でも、なんて書いてあるんだろう。

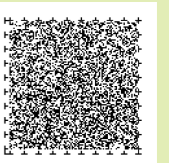
どうしたらいいか、分からない！誰に何て言えばいいの？



道に迷って、どこにいるのか、分からなくなっちゃった。困ったなあ。



平成30年12月  
東京都教育委員会



- ◆ 携帯電話やスマートフォンには、自分の現在地を調べたり、相手の居場所を検索したりする機能が搭載されています。

そのため、子供に持たせた携帯電話やGPS機器を活用すると、行方不明の予防や早期の対応が可能になります。

## たとえば、このような場合・・・

### 登校時の迷子

#### 【小学部6年の児童Aさん】

卒業に向けて、一人通学の練習をしています。ある朝、通学経路の曲がり角を通り過ぎてしまい、道が分からず、迷子になってしまいました。

保護者は、Aさんに携帯させていた携帯電話のGPS機能で、大まかな位置を確認し、学校に連絡しました。

学校は、捜索体制を整え、保護者から連絡を受けた位置情報を踏まえ、組織的に捜索することができ、発見、保護に至りました。

### バスの乗り越し

#### 【中学部2年の生徒Bさん】

路線バスを利用し一人通学をしています。ある朝、通学に利用しているバスが大変混雑していたため、降車ボタンを押すことができず、学校の最寄りのバス停を通過し、終点まで乗車してしまいました。

GPS機器を利用していたため、保護者にメールが届く機能と追跡検索の機能により、保護者にBさんの位置情報が、メールで届きました。

保護者は、学校に連絡するとともに、終点のバス停付近に向かい、発見、保護に至りました。

### 外出時の迷子

#### 【高等部1年の生徒Cさん】

GPS機能を設定したスマートフォンを携帯しています。ある休日、家族との外出中に駅で家族の姿を見失い、迷子になってしまいました。

Cさんの保護者は、GPS機能により、自宅と反対方向に向かっていることが分かり、電車で移動していることを確認しました。

保護者は交通機関に連絡し、Cさんは乗車していた路線の駅で、無事に保護されました。

- ◆ 東京都教育委員会では、特別支援学校に在籍する児童・生徒の安全対策を研究するために、モデル校5校を指定しました。

モデル校では、GPS機能を活用した捜索訓練を実施したり、行方不明の対応事例を収集したりすることで、GPS機能の活用方法の検討やその効果を調べました。

## 実際にGPS機能を活用してみると・・・

- モデル校(知的障害教育部門・高等部)において、GPS機能を設定した携帯電話又はGPS機器を全員携帯することにより、他の学校と比べて、行方不明事故発生率が、1校当たり0.5件低下しました。
- また、GPS機能を活用することにより、知的障害特別支援学校の小学部低学年の児童が、一人通学を行うことができるようになった事例がありました。



### 【モデル校での保護者の感想】

- ・子供の通学時や移動時の安全確認ができて、安心です。
- ・子供が一人で初めて行く場所に、間違えずに行くことができたかどうか確認できました。
- ・現場実習の通勤練習でバスを乗り間違えてしまいましたが、居場所がすぐに分かり、学校にも連絡できました。
- ・携帯電話を持たせると、いろいろな機能やサイトに興味をひかれてしまう子供でしたが、GPS機能だけの専用機は、安心して持たせることができました。



## GPS機能を使用するには・・・

- 現在、お使いのスマートフォンや携帯電話があれば、GPS機能が搭載されているか確認してみましょう。  
GPS機能が搭載されていないスマートフォンは、アプリを追加することによって、機能が使えるようになります。
- GPS機能だけの機器(専用機)もあります。その中には、首から下げたり、ベルト通しに付けたりすることで、機器に抵抗なく、確実に身に付けられるものがあります。



GPS機能を搭載したスマートフォン・携帯電話や、GPS機器を使用するときは、あらかじめ学校に御連絡・御相談ください。